

研究区分	教員特別研究推進 独創・先進的研究
------	-------------------

研究テーマ	アイルランド、スコットランド、ウェールズのケルト文芸復興運動家たち ——交流の軌跡と影響関係				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	有元 志保
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	有元 志保

講演題目	W・B・イエイツとウィリアム・シャープ——交流の軌跡と影響関係
------	---------------------------------

**研究の目的、成果及び今後の展望**

ケルト民族とは、紀元前の時代からヨーロッパの広範な地域に居住し、文化的、言語的にゆるやかな共通性を有していたと考えられる人々の集団である。近代以降のケルト文化に対する新たな関心の高まりは、19世紀から20世紀にかけてヨーロッパや北米の各地でケルト復興運動を引き起こした。本研究は、アイルランドを中心に隆盛した「ケルトの薄明」とも呼ばれる文芸運動に焦点を当て、運動家たちの交流の軌跡を検証するとともに、作品や評論の分析を行い、彼らの影響関係を明らかにすることを目的とする。

本年度は、それぞれアイルランドとスコットランドの復興運動を牽引した W・B・イエイツ（1865-1939）とウィリアム・シャープ（1855-1905）を中心に、19世紀末における両地域の運動家たちの関係性が運動の展開にいかに関与したのかを考察した。

イエイツとシャープは、ケルトはアイルランドとスコットランドを包含する概念であるにとらえ、両地域の連携を支持する立場を共有していた。また、神話や民話の影響を強く受けた彼らが作品で表象するケルト観には、近代社会からの隔絶、過去への郷愁、神秘の探究といった共通項が存在した。復興運動の一環としてそれぞれの地域で劇場の設立や雑誌の創刊を計画するにあたり、彼らは互いの作品を上演、掲載することを目論む。イエイツはケルト神秘主義教団の創設に向けて構想を練る際にも、シャープの協力を仰いだ。このように、多くの関心や問題意識を共有する二人は一時期親密に交流したが、復興運動をめぐる方向性の相違などから、やがて関係は冷却化する。それに伴い、アイルランドとスコットランドの連携の気運は衰退した。

イエイツとシャープが協調関係の構築を模索した過程を辿ることで、両者の試みは不調に終わったものの、それぞれがアイルランドとスコットランドで復興運動を推進する上で、互いに重要な役割を果たしていたことが明らかとなった。今回得られた成果を活かし、ケルト復興運動の包括的な理解に向けた研究を継続したい。